

令和2年度 施策評価シート 《令和元年度評価》

評価日	令和2年9月30日	No.	5 - 1
------------	-----------	------------	-------

基	施策名	第1節 生涯学習による人づくり・まちづくり	所管部署名	教育部		
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）	評価責任者	中村 詠子		
	施策小項目	1 生涯学習への支援	施策小項目	5 学習施設の整備充実	関連部署名(1)	教育部生涯学習課
	施策小項目	2 市民参加による事業の推進	施策小項目	6 人材の育成・活用	関連部署名(2)	
	施策小項目	3 学習内容の充実	施策小項目	7 団体の育成・支援	関連部署名(3)	
本	施策小項目	4 学習情報の提供	関連部署名(4)			
	施策の目的	市民が生涯のあらゆる時期において、学習する機会が得られることをめざす。				
事	施策に関する個別計画					
項	役割分担	市民の役割 公民館等を活用した主体的な生涯学習の取り組みに努める。				
		行政の役割 市民が利用しやすい生涯学習施設を提供し、各種講座等を開催し、人材の育成に努める。				

区分	指 標 名 (上 段)	単 位	設定時の値	実績値 (年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指 標 の 性 質 (下 段)						
指	① 生涯学習活動に対する満足度	%	52.4	66.2	63.0	A	70.0
	増加することが良いとされる指標		H28	R1	R1		R3
標							

施策の	評価軸	評価方法		評価点
		指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 4点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数
策	② 施策の進捗状況	<input checked="" type="checkbox"/> 順調（最終年度には100%以上の達成度の見込み） <input type="checkbox"/> おおむね順調（最終年度には80%以上の達成度） <input type="checkbox"/> やや順調でない（最終年度には50~80%程度達成度） <input type="checkbox"/> 順調でない（最終年度には50%未満の達成度）	評 価 の 理 由 ・ 説 明 生涯学習情報の提供、社会教育団体への支援及び学習施設の整備充実を図ったことで、生涯学習活動に対する満足度が上昇している。 主催事業の実施直後に参加者アンケートを記入してもらい、市民の声から改善点を把握し、事業実施に生かすことができた。 生涯学習情報の提供、生涯学習活動の支援、活動施設の整備をバランス良く実施することが必要であり、妥当であった。 ※構成する事務事業については裏面を参照	4点
	③ 市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった		3点
	④ 施策に対する事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった		3点
	施策に関する現状と課題			
価	生涯学習情報の提供、社会教育団体への支援及び学習施設の整備充実を図ったことで、生涯学習活動に対する満足度が上昇している。 生涯学習への支援に関しては、市民のニーズにあわせて主催事業を見直していく必要がある。 人材の育成・活用に関しては、人材登録バンクの登録、利用人数が伸び悩んでおり、周知の方法が課題となっている。 団体育成・支援に関しては、社会教育関係団体の支援を継続する必要がある。		施策評価 レーダーチャート	4点
				評価軸 ①~④の 評価点の 平均点

令和2年度 施策評価シート 《令和元年度評価》

評価日	令和2年9月30日	No.	5 - 2			
基	施策名	第2節 豊かな人間性を培う学校教育の充実	所管部署名	教育部		
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）	評価責任者	中村 詠子		
	施策小項目	1 確かな学力の向上	施策小項目	5 進学機会の確保	関連部署名(1)	教育部学校教育課
	施策小項目	2 教員の指導力の充実	施策小項目	6 地域と歩む学校	関連部署名(2)	教育部教育総務課
	施策小項目	3 健やかな心と身体の成長	施策小項目		関連部署名(3)	
	施策小項目	4 学校施設と教育環境の整備			関連部署名(4)	
本	施策の目的	・「家族を 郷土を 愛し 志を立て 凛として生きてゆく」ことができる吉川の児童生徒を育成するために、教職員の資質の向上、学校施設の整備、学校給食の充実、家庭・地域との連携をめざす。		市民の役割	学校を核として、家庭と地域が一体となり、豊かな心、学力、体力の向上に努め、生きる力を養う。	
	施策に関する個別計画				役割分担	児童・生徒の学力、豊かな心、体力の向上のために、教職員が教育課程や生徒指導等の実践力の向上に資するため教職員の研修の充実を図る。
事					行政の役割	
項						

区分	指標名 (上段)		単位	設定時の値	実績値 (年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)							
指	①	全国学力・学習状況調査における算数Aの平均正答率 (小学生)	%	75.3	65.0	78.0	D	79.3
		増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3
標	②	全国学力・学習状況調査における数学Aの平均正答率 (中学生)	%	55.5	56.0	60.8	D	63.5
		増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3
標	③	「将来の夢や目標を持っていますか」の項目の、「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」と考える児童の割合 (小学生)	%	86.6	84.9	89.9	D	92.0
		増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3

施策の評価	評価軸	評価方法		評価点
		指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 3点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数
の	施策の進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 (最終年度には100%以上の達成度の見込み) <input type="checkbox"/> おおむね順調 (最終年度には80%以上の達成度) <input checked="" type="checkbox"/> やや順調でない (最終年度には50~80%程度達成度) <input type="checkbox"/> 順調でない (最終年度には50%未満の達成度)	理由・説明 昨年度より、全国学力・学習状況調査の出題内容が変更となり、算数Aや数学Aという問題がなくなった。算数A,Bが合わさり算数になり、数学A、Bが合わさり数学となった。この影響で全国及び埼玉県の平均正答率が大幅に下がり今回のような結果となった。 目標値に届かないこともあり、市民ニーズを反映できていない状況である。しかし、指標②を見た場合全国平均は83.8で本市のほうが1.1パーセント上回っている。今後も吉川市教育大綱を受けた志教育の充実を図り、目標達成を目指していきたい。 学力の向上は、様々な教育活動の総合的な結果と考える。その上で各事務事業の構成は妥当であるとする。今後も各事務事業を適切に推進し教育大綱の実現に向けて、着実な取り組みを続けていきたい。 ※構成する事務事業については裏面を参照	2点
		<input type="checkbox"/> 反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった		2点
の	市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかといえば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった		3点
		施策に関する現状と課題		総合評価
の	評価	全国学力・学習状況調査の出題の方法が大幅に変更となったため、当初設定した指標①の達成は非常に困難な状況にある。また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために学校の臨時休業が実施され、指標となる学習調査自体が実施されていない。今後も継続的に評価する指標として不適なもの判断できる。		2点
				施策評価 レーダーチャート
				評価軸 ①~④の 評価点の 平均点

	貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)
				成果指標名	単位	R1目標値	R1実績値	
構 成	1	802103	少人数指導推進事業	1 少人数指導員一人当たりの勤務日数	日	200	190	現状のまま継続
	2	802102	特別支援教育充実事業	1 特別支援員一人当たりの平均勤務日数	日	203	190	手段を改善
	3	802202	特色ある教育推進事業	1 活動小中学校（特色ある）	校	11	11	現状のまま継続
	4	802101	教育研究会支援事業	1 研修会・作品展・発表会の開催	回	53	59	現状のまま継続
	5	802204	教育内容研究事業	1 事業成果発表学校数	校	4	4	現状のまま継続
	6	802201	教育指導負担事業	1 指導主事会研修会への参加状況	回	2	2	現状のまま継続
	7	802209	教育研究負担事業	1 研修会等への参加人数	人	27	27	現状のまま継続
	8	802104	学校図書充実事業	1 学校図書館司書一人当たり勤務日数	日	111	113	現状のまま継続
	9	802206	外国語教育推進事業	1 語学指導者総勤務日数	日	975	975	現状のまま継続
	10	802203	教育内容充実事業	1 中学校運動部外部指導者平均活動日数	日	30	13	現状のまま継続
す る	11	802210	吉川中学校開校準備事業	1 吉川中学校開校準備進捗状況	%	100	100	終了・完了
	12	802105	教科書改訂事業（小学校）	1 教科書給与人数	人	4,669	4,672	現状のまま継続
	13	802106	教科書改訂事業（中学校）	1 教科書給与人数	人	2,226	2,226	現状のまま継続
	14	802107	健康診断事業	1 児童生徒（就学予定児童会）健康診断受診率	%	100	97	現状のまま継続
	15	802207	教育指導事業	1 学校評議員会開催回数	回	55	55	現状のまま継続
	16	802208	教職員研修事業	1 人権教育実践資料集評価	点	8	8	現状のまま継続
	17	802308	生徒指導事業	1 市内小中学校問題行動等件数	件	300	799	現状のまま継続
	18	801102	就学援助事業（小学校）	1 準要保護世帯の給食費納付率	%	100	100	現状のまま継続
	19	801103	就学援助事業（中学校）	1 準要保護の世帯の給食費納付率	%	100	100	現状のまま継続
	20	801104	教育機器整備事業（小学校）	1 児童用パソコン整備率	%	100	100	現状のまま継続
事 務	21	801105	教育機器整備事業（中学校）	1 生徒用パソコン整備率	%	100	100	現状のまま継続
	22	801107	吉川中学校開校準備事業	1 消耗品費の執行率	%	100	100	終了・完了
	23	801108	施設管理事業（小学校）	1 事故件数	件	0	0	現状のまま継続
	24	801109	施設管理事業（中学校）	1 事故件数	件	0	0	現状のまま継続
	25	801110	学校運営事業（小学校）	1 消耗品費の執行率	%	100	98.4	現状のまま継続
	26	801111	学校運営事業（中学校）	1 消耗品費の執行率	%	100	100	現状のまま継続
	27	801203	学校施設整備事業（小学校）	1 学校からの報告に対し現地確認した率	%	82	72.5	0
	28	801204	学校施設整備事業（中学校）	1 学校からの報告に対し現地確認した率	%	82	70.4	現状のまま継続
	29	801205	中学校建設事業	1 工事進捗率	%	100	100	終了・完了
	30	801301	学校給食充実事業	1 臨時職員（配膳員）勤務日数	日	188	188	現状のまま継続
業	31	801302	給食食材購入事業	1 小学校において給食がおいしいと回答した率	%	88.8	89.3	現状のまま継続
	32	801303	学校給食センター管理事業	1 給食残菜率	%	9.1	8.6	現状のまま継続
	33	801304	学校給食センター整備運営事業	1 学校給食を提供できなかった回数	日	0	0	手段を改善

特記事項
3月の一斉臨時休業に伴い、家庭で休業中の子供の面倒を見るなどして、特別支援教育支援員の勤務日数は、減少した。今年度も4月、5月に休業期間があったために同様の結果になると思われるが、特別支援教育支援員の勤務姿勢や学校の教育活動への有効性は十分に評価できるものとする。少人数指導員についても同様の事が言える。

今後の展開
小学校においては、県費負担教職員の教科指導の充実のための加配教員が1名のみの学校に、市独自で少人数指導教員を配置している。主に算数科において学級の児童を分けて指導する少人数の指導を推進している。児童の個々の学力や学習状況に応じてきめ細やかな指導を行うことで、基礎的・基本的な学習内容の定着につなげている。
今後も吉川市教育大綱「家族を 郷土を愛し 志を立て 凜として生きていく」児童生徒の育成に向けて、各事務事業の確実な実施やICT活用の充実を図り、自制心、やり抜く力、協調性などの非認知能力の育成を進めていきたい。

令和2年度 施策評価シート《令和元年度評価》

評価日	令和2年9月30日			No.	5	-	3
基	施策名	第3節 青少年健全育成の充実		所管部署名	教育部		
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）		評価責任者	中村 詠子		
	施策小項目	1 健全育成活動の充実	施策小項目	関連部署名(1)	教育部学校教育課		
	施策小項目	2 教育相談活動の充実	施策小項目	関連部署名(2)			
	施策小項目	3 非行防止活動の充実	施策小項目	関連部署名(3)			
本	施策小項目	4 いじめや不登校の早期対応・解消	施策小項目	関連部署名(4)			
	事	施策の目的	次の世代を担う青少年が心身ともに健やかに成長し、自立した心豊かな社会人となることをめざす		役割分担	市民の役割	地域ぐるみの健全育成やPTAによる地域の青少年の健全な育成活動に努める。
		項	施策に関する個別計画				行政の役割

区分	指標名 (上段)		単位	設定時の値	実績値 (年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)							
指	①	市内不登校児童率 (小学生)	%	0.35	0.43	0.25	D	0.20
		減少することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3
標	②	市内不登校生徒率 (中学生)	%	2.23	3.57	2.08	D	2.00
		増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3
標	③	「規律ある態度」⑤あいさつの項目において達成率80%以上の学年数 (県学力・学習調査)	学年	5	5	8	D	9
		増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3

評価軸	評価方法		評価点
	指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 3点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数
施策の進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 (最終年度には100%以上の達成度の見込み) <input type="checkbox"/> おおむね順調 (最終年度には80%以上の達成度) <input checked="" type="checkbox"/> やや順調でない (最終年度には50~80%程度達成度) <input type="checkbox"/> 順調でない (最終年度には50%未満の達成度)	不登校児童生徒の数は、年度により異なるが、増加傾向にあり、目標達成は困難な状況である。不登校児童生徒の背景は、複雑・多様化しているため、個々に応じた丁寧な対応を行っているが、不登校解消にはつながっていない。	2点
市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった	学校相談員や少年センター教育相談を通じて、保護者や子どもたちの相談を受けている。そのなかで、市民が求めているものを把握し、学校相談員が子どもと学校の橋渡しをしたり、少年センターが学校や関係機関と連携を図りながら問題解決に努めている。	3点
施策に対する事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった	学校相談員や教育相談員が子どもたちや保護者の問題に対し、早期対応・早期解決を図ることで学校生活がスムーズに行えるようになり、不登校の早期対応・早期解消につながるから妥当である。健全育成活動や非行防止活動についても地域における子育て支援という観点から妥当である。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点
評	施策に関する現状と課題		総合評価
	不登校児童生徒数は年度によって異なるものの、増加傾向にあるといえる。不登校の理由もさまざまであり、専門的なスキルが求められるようなものも少なくない。本人の問題だけでなく家庭の問題もかかわってくるから、学校だけでなく関係機関と連携を図りながら、支援をしていくことが必要である。		2点

評価軸 ①~④の評価点の平均点

貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)		
			成果指標名	単位	R1目標値	R1実績値			
構 成	1	802301	教育相談事業	1	少年センター職員の受けた相談の解決改善率	%	80.00	63.15	現状のまま継続
	2	802302	適応指導教室事業	1	市内不登校児童生徒の適応指導教室通級率	%	15.00	7.44	現状のまま継続
	3	802305	学校相談事業	1	相談員の解決改善率	%	80.00	83.25	現状のまま継続
	4	802303	健全育成活動事業	1	青少年育成推進員の活動参加率	%	50.00	41.26	現状のまま継続
	5	802304	非行防止活動事業	1	補導員による声かけ件数	回	100	40	手段を改善
	6	802308	生徒指導事業	1	市内小中学校問題行動等件数	件	300	799	現状のまま継続
す る 事 務 事 業									

特記事項
引きこもり傾向の児童生徒に対し、大学生が家庭訪問をするアウトリーチ事業を開始した。令和元年度の対象児童生徒は、8名。訪問延べ回数は53回であった。
年の近い大学生が訪問することで、子どもたちとのコミュニケーションが図られ、本人の生活リズムが整ったり、外出するきっかけを作ることができた。

今後の展開
子どもに関するさまざまな問題の解決に向け、学校相談員やSC,SSWなどの相談員を設置し、市民が相談しやすい体制を図ってきた。今後についても、引き続き、関係機関との連携を強め、複雑・多様化する子どもたちの問題の解決に向けて取り組んでいく。

令和2年度 施策評価シート 《令和元年度評価》

評価日	令和2年9月30日		No. 5 - 4	
基 本 事 項	施策名	第4節 幼児教育の充実	所管部署名	こども福祉部
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）	評価責任者	伴 茂樹
	施策小項目	1 幼児教育の支援	施策小項目	
		2 保育所・幼稚園・小学校の連携	施策小項目	
			施策小項目	
			関連部署名(1)	こども福祉部保育幼稚園課
			関連部署名(2)	教育部学校教育課
			関連部署名(3)	
			関連部署名(4)	
	施策の目的	小学校就学前の子どもたちが生活や学習の基礎を身に付けられることをめざす。	役 割 分 担	市民 の 役 割
	施策に関する個別計画	吉川市子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～令和元年度）		
			行政 の 役 割	健全な幼児の育成に努める。
				幼児の健やかな成長に資する良好な環境整備と保護者の経済的負担を軽減するための支援を行う。

区分	指 標 名 (上 段)	単 位	設定時の値	実績値 (年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指 標 の 性 質 (下 段)						
指 標	① 30日以上（累計）欠席（傷病を除く）をした小学校1年生の人数	人	1	2	0	D	0
	減少することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3
	② 年度当初において3歳以上の未就学児に対する幼稚園へ入園している児童の割合	%	66.49	58.88	68.16	D	69.00
	増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3

施策の 評価	評価軸	評価方法	評価点
		評価軸① 指標達成状況 指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80～99%)、 C=2点(達成度50～79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 2点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数
	評価軸② 施策の 進捗状況 <input type="checkbox"/> 順調（最終年度には100%以上の達成度の見込み） <input type="checkbox"/> おおむね順調（最終年度には80%以上の達成度） <input checked="" type="checkbox"/> やや順調でない（最終年度には50～80%程度達成度） <input type="checkbox"/> 順調でない（最終年度には50%未満の達成度）	令和元年度は小学生の不登校が増加した。児童一人ひとりに寄り添い、丁寧な教育相談、生徒指導を強化していく。 幼稚園入園児童の割合については、幼児教育・保育無償化制度の開始により保護者の選択肢が増えたが、女性の社会進出の高まりなどにより保育所を選択する家庭が増えているものとする。	2点
	評価軸③ 市民ニーズ の反映度 <input type="checkbox"/> 反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった	小学校と幼稚園、保育園等が連携を図ることで、安心して小学校生活をスタートできることから、市民ニーズを反映しているものとする。	3点
	評価軸④ 施策に対する 事務事業の構成 <input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった	小学校就学前の連携は生徒指導や特別支援教育の充実を図る上でも重要となる。また、教材費等の支援は幼児教育の充実を図るために必要であることから、妥当と考える。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点
	施策に関する現状と課題		総合評価
	吉川市保幼小連絡協議会を開催し、小学校と幼稚園、保育園等が情報交換を主とする連携を図ることで、児童が円滑に小学校生活に移行できるよう進めている。また、相互の学習参観についても計画的に実施できた。 令和元年10月から幼児教育・保育無償化制度が開始となり、幼稚園就園奨励費補助金が廃止となった。		2点
			評価軸 ①～④の 評価点の 平均点

貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)		
			成果指標名	単位	R1目標値	R1実績値			
構	1	802205	幼児教育事業	1	情報交換等回数	回	2	2	現状のまま継続
	2	304113	幼児教育支援事業	2	幼稚園入園率	%	70.00	70.99	他の事業に統合
	3	304112	幼稚園就園補助事業	1	補助交付率	%	70.00	60.00	他の事業に統合
成									
す									
る									
事									
務									
事									
業									

特記事項

今後の展開

幼児教育事業（保幼小連絡協議会）については、未就学児をスムーズに小学校へつなげるため、引き続き小学校と幼稚園、保育園等が緊密に連携を図っていく。また、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの充実を図り、非認知能力を育成し、吉川市教育大綱実現のための礎を築いていく。幼児教育支援事業については、幼児教育の充実を図るため、必要な教材や研修等に関する補助を継続していく。

令和2年度 施策評価シート 《令和元年度評価》

評価日	令和2年9月30日	No.	5 - 5		
基	施策名	第5節 家庭・地域・学校の連携	所管部署名	教育部	
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）	評価責任者	中村 詠子	
	施策小項目	1 家庭教育学級の充実	施策小項目	関連部署名(1)	教育部生涯学習課
	施策小項目	2 保護者への支援	施策小項目	関連部署名(2)	
	施策小項目	3 地域の教育力の活用	施策小項目	関連部署名(3)	
本	施策小項目		関連部署名(4)		
	事	施策の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の中で、子どもが社会で生活する力が身につくことをめざす。 ・子育て家庭を地域で支えることをめざす。 	市民の役割 役割分担 行政の役割	家庭の役割を見つめ直し、子どもに社会で必要となる基本的な力を身につけさせることに努める。 家庭・地域・学校を繋げ、地域で子どもを育てる環境を作る。
		項	施策に関する個別計画		

区分	指標名 (上段)	単位	設定時の値	実績値 (年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)						
指	① 家庭教育学級への参加率 (未就学)	%	38.40	54.50	46.13	A	50.00
	増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3
標	② 家庭教育学級への参加率 (小中学校)	%	32.50	42.90	44.16	B	50.00
	増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3
標	③ 地域寺子屋事業の実施団体数	団体	6	6	8	D	9
	増加することが良いとされる指標		H27	R1	R1		R3

施策の評価	評価軸	評価方法		評価点
		① 指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 8点
② 施策の進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 (最終年度には100%以上の達成度の見込み) <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 (最終年度には80%以上の達成度) <input type="checkbox"/> やや順調でない (最終年度には50~80%程度達成度) <input type="checkbox"/> 順調でない (最終年度には50%未満の達成度)	【家庭教育学級】 前例踏襲の傾向はあるものの安定した事業実施ができています。 【地域寺子屋事業】 実施箇所数は目標数に及ばないが、地域で子どもたちの居場所を作り見守ることで、地域住民の交流と活性化が図られた。	3点	
③ 市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった	両事業とも実施後に報告書の提出があり、実施状況の確認とともに、実施者からの意見聴取ができた。	3点	
④ 施策に対する事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった	家庭・地域における生涯学習活動に直結する事業で構成できている。家庭教育学級の小中学校については、各校のPTAが実施しており、学校を舞台に保護者との連携が図られており、妥当である。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点	
施策に関する現状と課題				総合評価 3点
①家庭教育学級への参加率は、おおむね目標値を達成できた。 ・保育園・幼稚園の保護者が行う家庭教育活動については、毎年、担当する保護者の引継ぎがあり、その良し悪しが事業実施に影響する。 ・小中学校においては、PTA活動の一環として実施されており、参加率に大きな変動がない。 ②目標指標である地域寺子屋事業の実施団体数について、目標値を達成できなかった。 ・一時期は最大8団体が寺子屋事業を実施していたが、実施団体の中心人物が事情により携われなくなってしまうと、事業自体の継続が難しいケースがある。		施策評価 レーダーチャート		評価軸 ①~④の 評価点の 平均点

	貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)
				成果指標名	単位	R1目標値	R1実績値	
構	1	803101	家庭教育推進事業	1 家庭教育学級実施率	%	45.15	45.90	現状のまま継続
	2	803112	放課後子ども教室事業	2 参加者アンケートの満足度	%	90.00	-	現状のまま継続
	3	803102	子ども体験活動事業	1 体験活動参加率	%	150.00	96.08	現状のまま継続
成								
す								
る								
事								
務								
事								
業								

特記事項
新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、活動が制限されてしまう。

今後の展開
家庭教育学級については、吉川中学校をはじめ、今後、新たに開設する保育園や幼稚園についても、家庭教育の促進のため事業実施について働き掛けていき、地域寺子屋事業については、現在、実施している6カ所の継続を支援するとともに、事業の周知により、新たな地域の発掘に努める。

令和2年度 施策評価シート 《令和元年度評価》

評価日	令和2年9月30日		No. 5 - 6	
基	施策名	第6節 多彩で個性ある文化の創造と伝承	所管部署名	教育部
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）	評価責任者	中村 詠子
	施策小項目	1 文化財の保護・保存	施策小項目	5 施設の整備充実
	施策小項目	2 歴史資料の収集・調査・保存・活用	施策小項目	
	施策小項目	3 文化財愛護活動の推進	施策小項目	
本	施策小項目	4 芸術文化活動への支援	施策小項目	
	施策の目的	市民の自主的な芸術文化活動を通して地域に根ざした文化の振興と、郷土の歴史や文化が広く伝承されることをめざす。		役割分担 市民の役割 行政の役割
事	施策に関する個別計画	市民の自主的な芸術文化活動を通して地域に根ざした文化の振興と、郷土の歴史や文化が広く伝承されることをめざす。		
		芸術文化や郷土の歴史・文化財に対する関心を深め、郷土愛を育むことに努める。		
		市民の自主的な芸術文化活動を通して地域に根ざした文化の振興と、郷土の歴史や文化が広く伝承されることをめざす。		
項		市民の自主的な芸術文化活動を通して地域に根ざした文化の振興と、郷土の歴史や文化が広く伝承されることをめざす。		
		市民の自主的な芸術文化活動を通して地域に根ざした文化の振興と、郷土の歴史や文化が広く伝承されることをめざす。		
		市民の自主的な芸術文化活動を通して地域に根ざした文化の振興と、郷土の歴史や文化が広く伝承されることをめざす。		

区分	指標名 (上段)	単位	設定時の値	実績値 (年度)	目標値 (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)						
指	① 芸術文化に触れ合う機会の満足度	%	37.6	56.9	45.0	A	50.0
	増加することが良いとされる指標		H28	R1	R1		R3
標							

評価軸	評価方法		評価点
	評価軸① 指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 4点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数
評価軸② 施策の進捗状況	<input checked="" type="checkbox"/> 順調 (最終年度には100%以上の達成度の見込み) <input type="checkbox"/> おおむね順調 (最終年度には80%以上の達成度) <input type="checkbox"/> やや順調でない (最終年度には50~80%程度達成度) <input type="checkbox"/> 順調でない (最終年度には50%未満の達成度)	普段から文化芸術活動を行っている団体や個人に対して、活動施設の充実による支援を図るとともに、芸術の鑑賞だけでなく参加する機会を設けていることで、目標値を達成することができている。	4点
評価軸③ 市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった	市民意識調査では、有料でも、行きたいと思うようなコンサートや展覧会などの開催を望む声が多い中、有償による演劇公演やコンサートを実施することができた。	3点
評価軸④ 施策に対する事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった	文化芸術振興だけではなく、これまで培われてきた文化の継承も重要であることから、文化財保護事業なども含めた事業構成は妥当である。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点
評	施策に関する現状と課題		総合評価
	彩の国さいたま芸術劇場と連携した演劇を身近に感じることができる「演劇プロジェクト」、「文藝よしかわ」の刊行及びプロの演奏家による「生音コンサート」等の事業を実施することで、芸術に触れる機会を設けるとともに、市民の文化芸術活動の要となっている中央公民館やおあしす等の施設の充実を図り、「文化芸術に触れ合う機会の満足度」が向上した。 引き続き、市民の文化芸術活動の発表の場の確保や文化連盟をはじめとする団体の育成や活性化を図るため、文化芸術活動への支援を推進していく。		
価	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> 施策評価 レーダーチャート </div>  </div>		評価軸①~④の 評価点の 平均点

